

っていた。漢字は表音文字ではなく表意文字で、『中華人民共和国』はそのすべてが和製漢字だそう
だ。だからかも知れない。漢字は部首の構成で成り立
っているが、この画像を覗いていると、『ホウ、ホウ』と表
音文字で伝わりそうな感想をもってしまふ。先日、家族
の会話でリビングとダイニングとキッチンにそれぞれがいて
会話をしていた。もちろんノイズも発生している。耳が
頼りにならない会話は、細かい音の違いが聞き取れな
い。ふと自分は、娘となら『ア・イ・ウ・エ・オ』の五音
だけで、会話が成立するのではないかと思った。

そんな複雑な会話が、あれだけの音調しか持たない言語で成立していた。ひょっとすると言語はそこまで必要ではないのかも知れない。人間社会は、複雑にし過ぎたのかも知れない。『ひと』をあまり複雑に捉えるより、もっとシンプルに捉えると人間社会も縄文時代のように長く維持できるのかも知れない。この世に自分はいなくて、いるのは人から役立ててもらえる自分がいるに過ぎないように思える。ひとの役に立てるように自らを鍛え、必要とされることを見極めれば良いのだろうと思う。この事が核となって、その表層に幾重かの色をまとい、調律すればその様自体が言語となっていくだろう。

この図を観ていると、ふとそんな思いに駆られたが、これを描いた著者は『サ行は神に纏わる言葉の集まりだ』と言う。そうかも知れない。『早乙女』『五月女』は田に稲の苗を植える娘を言う。あれっ、娘だけなのかな、おばさんは田植えをするのかな。そもそもの田植えで田に入るのは女性に限った事なのだろうか。男は田を均した後は、畔から苗の束を放り投げるだけの役割か。文化はどうなんだろう。一度調べてみても面白いかも知れない。神が女を近づけないという話しはよく聞かすが、神が何を考えているのか今ひとつ分からない。つまりサ行という訳で、神からの使いが田に植えるという事だとすると、どうも『サ』自体が神を表す音らしいことになる。そういえば、今思い出したが天皇の田に、平成天皇自身が田植えをしている姿をテレビで見た気がする。まさか天皇自体が神だから例外というんじゃないだろうな。

またしても横道に逸れた。どうもいつに増してまとまりが無くなっているが、我慢して続ける。つまり何処から横道が始まったかは、犬はワンワンからだ。言いたい事は、表音文字は抑揚がカギで、抑揚の如何に依って意味を伝えるという事を言いたかったのだが、そう考えると中国語はその抑揚にすべてがありそうで、もし仮にそうだとすると、中国語は言葉と文字に一貫性が薄いような気がした。ア行は感情・感嘆を表す言葉の集まり。そのような筋道で考えると、『漢字』は元々日本の古に起源があるという説も一定程度頷ける。

ところで、情報通り 1 月に解散総選挙となった。そういう情報を受けていたが、其の通りになるという事は、予めシナリオを誰かが書いていて、其の通り動いている事になる。タイタニック号はイギリスを出て大西洋を渡ったんだよね。そうすると、太平洋というのはかなり未開の地？ということになる。東から西に動く事が西洋の理なのかも知れないが、ひとが日の出を追いかけて西から東に移動するのは目的が明確だと思う。ということは、西洋人と東洋人という括りより、アフリカを出発して太陽を目指して東に移動して行ったグループと、単に食料を求めて西に移動して行ったグループは根本的に考え方が違って当然だろう。なるほど、これはめっちゃ面白い学説になる。学説という限りは、論理的に説明しなければいけないが、それは、優先順位は低いので、生きている間に機会があれば、という事にしておこう。

ところで、今月もこんな愚にもつかないことばかりを並べ立てているが、気が付けば 2 月 2 日は設立記念日という事になる。思い起こしてみれば 1990 年に設立登記した。創業は 1987 年 11 月某日で(思い出すことも調べる事も面倒)、とりあえず開業資金を大阪府から借入する為、開業届を府の出先機関に提出しておいた。未だ友だちの立ち上げ事業を手助けしている時だが、その友だちが『開業後半年は掛かるから、先に開業届だけ出しておけば良い』と知恵をつけてくれた。その時に受付してくれた年配の女性が、『吉田の吉は下が長いのか上が長いのか、戸籍通りでない』と審査が通らない』と教えてくれた。それまでは子供の頃から下を長く書いていた。調べれば上が長くて『きち』だった。親も知っていただろうに。そういえば親といえば、先月に自分は父と母を選んで何をしに生まれて来たかが分かったと書いたが、実は親も子を選んで生んでいる気がする。昨年末に来た帝国データバンクの調査員が、『自分は夢を諦めて会社勤めになったが、その事を何も言っていないのに、息子はその諦めた道を進み始めて驚いた』と言った。この手の話しは時々聞く。思い起こしてみれば兄も自分も、一度だけ父が『夢だ』と語った道を進み始めている事に気づいた。

有限会社アルファー 吉田清一郎